

新約聖書 ルカによる福音書 12 章 49 節—56 節（新共同訳）

⁴⁹「わたしが来たのは、地上に火を投ずるためである。その火が既に燃えていたらと、どんなに願っていることか。⁵⁰しかし、わたしには受けねばならない洗礼がある。それが終わるまで、わたしはどんなに苦しむことだろう。⁵¹あなたがたは、わたしが地上に平和をもたらしために来たと思うのか。そうではない。言うておくが、むしろ分裂だ。⁵²今から後、一つの家に五人いるならば、三人は二人と、二人は三人と対立して分かれるからである。

⁵³父は子と、子は父と、／母は娘と、娘は母と、／しゅうとめは嫁と、嫁はしゅうとめと、／対立して分かれる。」

⁵⁴イエスはまた群衆にも言われた。「あなたがたは、雲が西に出るのを見るとすぐに、『にわか雨になる』と言う。実際そのとおりになる。⁵⁵また、南風が吹いているのを見ると、『暑くなる』と言う。事実そうなる。⁵⁶偽善者よ、このように空や地の模様を見分けることは知っているのに、どうして今の時を見分けることを知らないのか。」

※第 1 朗読と第 2 朗読は末尾に掲載

説教「時を見分ける」

「わたしが来たのは、地上に火を投じるためである」とイエスは言います（ルカ 12:49）。イエスのこの言葉は、原文では「火」という言葉が文頭に置かれて強調されています。

「火」とは何でしょうか。火は金属を精錬するために用いられるので、伝統的に火は、物を「清める」力を持つとされます。そして信仰は、試練という火によって純化され、金よりも遥かに尊いものとされます（ペトロの手紙一 1:7）。

さらに重要なことは、「火」が本質的に天上の神の世界に属するものなので、火のうちから神はご自身を人々に示す（啓示する）ということです（出 3:2）。

イエスが、この地上にもたらされ燃え上がることを望まれた火とは、「聖霊と火による洗礼」によって人々に与えられる「神の命そのもの」を指しています（ルカ 3:16）。

イエスは、神の救いの計画を完成するために十字架上の死を引き受け、その死をご自分の「洗礼」と見なします（ルカ 12:50）。

このように「火」は「洗礼」と結びつくことによって、神の命をもたらすものとなりました。そしてこのことは聖霊降臨の日に使徒たちの上に「炎のような舌が分かれ分かれに現れ、一人一人の上にとどまった」ことによって表されているのです（使徒言行録 2:3）。

イエスは次に、ご自分の到来によって家族間に分裂が生じることを告げます（ルカ 12:51-53）。イエスは言います。「あなたがたは、わたしが地上に平和をもたらすために来たと思うのか。そうではない。言うておくが、むしろ分裂だ」（ルカ 12:51）。

ここでの分裂とは、単に分かれるだけではなく、対立を伴うものです。イエスの存在そのものが、人々の心の内をあらわにするのです。

これは、神の国の宣教が平和と和解を世に拡げるためであるという一般的なイメージ（ルカ 1:79、2:14 など）と、矛盾しているように聞こえます。ですが、表面だけを取り繕った偽善的な平和の中には、その中で誰かが我慢を強いられている現状が多くあるでしょう。

そのような見せかけの平和ではなく、真（しん）の平和を達成するため、そして真理を求めるためには、家族間においても、必然的に分裂が引き起こされると言われているのだと思います。

ここでイエスは、五人家族であるなら、今から後、三人と二人が敵対し、分裂すると予告しています。「今から後」という表現は、その分裂が将来起きるのではなく、すでに今始まろうとしていることを強調しています（ルカ 12:52）。

イエスは平和の使者であるというイメージが強いだけに、この「平和ではなく分裂」というメッセージは私たちを困惑させます。しかしそれだけに、まさに受難を経て復活があるように、平和は無償では与えられず、真の目的を達成するためには多くの苦難や忍耐の時を経なければならないことがここに示されています。

事実、私たちも何らかの目的に向かって行動しようとする時、それがいかに崇高で正当なものであっても、なかなか他者の理解を得ることができず、むしろ予想外の抵抗にあい、非難をされることもあるでしょう。その意味では、大きな目的を達成するためには、産みの苦しみを経験することを覚悟しておく必要があるとこの箇所は示しています。

さらにイエスは、再び群衆に向かって語り始めます（ルカ 12:54）。ここでの群衆とは、生活のための知恵はあっても、「今の時」（ルカ 12:56）を見極める知恵を持たない存在だとされています。

ここでイエスは、人々が地と空の模様を見極め、天候を予測する能力を持っていると述べます。ところが、人々はこのような「地と空の模様」、すなわち雲や風が指し示す兆候を見分けることはできても、大切な「今の時」を見分けることができないでいると指摘します（ルカ 12:56）。

天候を予測して明日に備えるなど、日常生活に必要な様々な知恵を身につけているにもかかわらず、それよりはるかに重要な「今の時」の意味を理解せず、それに備えようとしない人々にイエスは警告を発します。

ここでイエスが私たちに願っていることは、目に見えるこの世の現象に目を奪われて翻弄されるのではなく、目に見えない時のしるし、とりわけ「今の時」をしっかりと見極め、より本質的なもの、神の真理を求めて生きていくことです。

さて、8月も後半に入りました。

人間関係における分裂は、より良く健全な関係を再構築させるための準備となることがあるでしょう。

イエスが十字架につけられる時、弟子たちも恐れによって、一旦はイエスから離れました（ルカ 22:54-62）。しかし、そのあとは心を新たにしておいてイエスのもとに戻りました。イエスのもとに戻った弟子たちは、「もとのさやに収まった」のではなく、進化・成長をし、新たなイエスとの絆に生きるようになったのです。

「雨降って地固まる」ということわざがあります。それは、「揉め事やいざこざなどのトラブルが発生したあと、それによってかえって物事が落ち着き、良い状態になること」を意味するたとえです。

イエスは、「父は子と、母は娘と、しゅうとめは嫁と」という風に、家族間で対立が起き、分裂すると述べました（ルカ 12:53）。

これらのことは、単なる悪いことではなく、魂の解放となる場合もあるでしょう。

私たちは、どのような状況の中にいる時も、その先にある希望の光を見つめながら、今の時を一步一步、共に歩んでいきましょう。

お祈りをいたします。

天の父なる神様。あなたは、私たちが覆い隠しているものを火によって焼き、清め、命を与えてくださいます。私たちの思いを超えたあなたの知恵によって、今の時を見分け、あなたと隣人と共に生きる道をお与えください。救い主 御子 イエス・キリストによって祈ります。アーメン

***** 説教ここまで *****

以下、本日に関連する聖書箇所（第1朗読と第2朗読）です。

旧約聖書 エレミヤ書 23章 23節—29節（新共同訳）

²³ わたしはただ近くにいる神なのか、と主は言われる。わたしは遠くからの神ではないのか。²⁴ 誰かが隠れ場に身を隠したなら／わたしは彼を見つけられ

ないと言うのかと／主は言われる。天をも地をも、わたしは満たしているではないかと／主は言われる。

²⁵ わたしは、わが名によって偽りを預言する預言者たちが、「わたしは夢を見た、夢を見た」と言うのを聞いた。²⁶ いつまで、彼らはこうなのか。偽りを預言し、自分の心が欺くままに預言する預言者たちは、²⁷ 互いに夢を解き明かして、わが民がわたしの名を忘れるように仕向ける。彼らの父祖たちがバアルのゆえにわたしの名を忘れたように。²⁸ 夢を見た預言者は夢を解き明かすがよい。しかし、わたしの言葉を受けた者は、忠実にわたしの言葉を語るがよい。もみ殻と穀物が比べものになるのかと／主は言われる。

²⁹ このように、わたしの言葉は火に似ていないか。岩を打ち砕く槌のようではないか、と主は言われる。

新約聖書 ヘブライ人への手紙 11 章 29 節—12 章 2 節（新共同訳）

²⁹ 信仰によって、人々はまるで陸地を通るように紅海を渡りました。同じように渡ろうとしたエジプト人たちは、おぼれて死にました。³⁰ 信仰によって、エリコの城壁は、人々が周りを七日間回った後、崩れ落ちました。³¹ 信仰によって、娼婦ラハブは、様子を探りに来た者たちを穏やかに迎え入れたために、不従順な者たちと一緒に殺されなくて済みました。

³² これ以上、何を話そう。もしギデオン、バラク、サムソン、エフタ、ダビデ、サムエル、また預言者たちのことを語るなら、時間が足りないでしょう。³³ 信仰によって、この人たちは国々を征服し、正義を行い、約束されたものを手に入れ、獅子の口をふさぎ、³⁴ 燃え盛る火を消し、剣の刃を逃れ、弱かったのに強い者とされ、戦いの勇者となり、敵軍を敗走させました。³⁵ 女たちは、死んだ身内を生き返らせてもらいました。他の人たちは、更にまさったよみがえりに達するために、釈放を拒み、拷問にかけられました。³⁶ また、他の人たちはあざけられ、鞭打たれ、鎖につながれ、投獄されるという目に遭いました。³⁷ 彼らは石で打ち殺され、のこぎりで引かれ、剣で切り殺され、羊の皮や山羊の皮を着て放浪し、暮らしに事欠き、苦しめられ、虐待され、³⁸ 荒れ野、山、岩穴、地の割れ目をさまよい歩きました。世は彼らにふさわしくなかったのです。

³⁹ ところで、この人たちはすべて、その信仰のゆえに神に認められながらも、約束されたものを手に入れませんでした。⁴⁰ 神は、わたしたちのために、更にまさったものを計画してくださったので、わたしたちを除いては、彼らは完全な状態に達しなかったのです。

¹ こういうわけで、わたしたちもまた、このようにおびただしい証人の群れに囲まれている以上、すべての重荷や絡みつく罪をかなぐり捨てて、自分に定められている競走を忍耐強く走り抜こうではありませんか、² 信仰の創始者また完成者であるイエスを見つめながら。このイエスは、御自身の前にある喜びを捨て、恥をもいとわないで十字架の死を耐え忍び、神の玉座の右にお座りになったのです。

教会讃美歌 131 番「聖なる聖なる」、151 番「ひとの目には」、199 番「主よいま去りゆく」。